

2016年8月期 第3四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2016年8月期第3四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第3四半期決算概要	P3	～	P22
II. 2016年8月期 通期業績予想	P23	～	P26
III. 参考資料	P27	～	P29

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業：国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業：ジーユー事業、セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

**第3四半期3ヶ月間は増収増益
売上収益は計画通り、営業利益は計画を上回る**

	1Q～3Q (2015/9～2016/5)			3Q (2016/3～2016/5)			単位：億円
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比	
売上収益 (売上比)	14,346 100.0%	13,481 100.0%	+6.4%	4,229 100.0%	3,984 100.0%	+6.2%	
売上総利益 (売上比)	6,943 48.4%	6,864 50.9%	+1.2% ▲2.5p	2,174 51.4%	2,069 51.9%	+5.1% ▲0.5p	
販管費 (売上比)	5,404 37.7%	5,028 37.3%	+7.5% +0.4p	1,697 40.1%	1,664 41.8%	+2.0% ▲1.7p	
事業利益 (売上比)	1,538 10.7%	1,836 13.6%	▲16.2% ▲2.9p	476 11.3%	404 10.2%	+17.8% +1.1p	
その他収益・費用 (売上比)	▲80 -	56 0.4%	- -	▲12 -	▲12 -	- -	
営業利益 (売上比)	1,458 10.2%	1,892 14.0%	▲23.0% ▲3.8p	464 11.0%	391 9.8%	+18.6% +1.2p	
金融収益・費用 (売上比)	▲237 -	210 1.6%	- -	▲64 -	74 1.9%	- -	
税引前四半期利益 (売上比)	1,220 8.5%	2,102 15.6%	▲41.9% ▲7.1p	400 9.5%	466 11.7%	▲14.1% ▲2.2p	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (売上比)	710 4.9%	1,323 9.8%	▲46.4% ▲4.9p	239 5.7%	276 6.9%	▲13.2% ▲1.2p	

注：事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

2016年8月期第3四半期9ヶ月累計の連結業績ですが、
売上収益は1兆4,346億円、前年同期比6.4%増、
事業利益は1,538億円、同16.2%減、
営業利益は1,458億円、同23.0%減と増収減益の結果となりました。

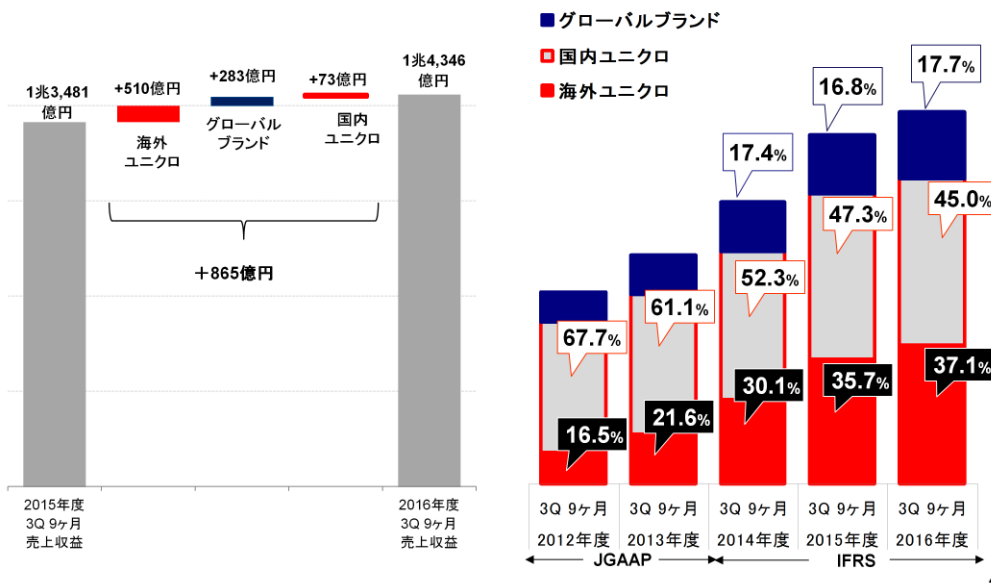
なお、第3四半期9ヶ月間では、金融収益・費用の合計が237億円のマイナスと、
前期の210億円のプラスから大幅にマイナスに転じたため、税引前四半期利益は
同41.9%減となっております。

一方で、第3四半期3ヶ月間の連結業績の実績は、売上収益が前年同期比6.2%増と
計画通り、利益面では計画を上回り、事業利益が前年同期比17.8%増、
営業利益は同18.6%と増益に転じ、増収増益となりました。

【連結】第3四半期(9ヶ月累計) 売上収益

売上収益1兆4,346億円、865億円の増収
海外ユニクロ事業が509億円の増収

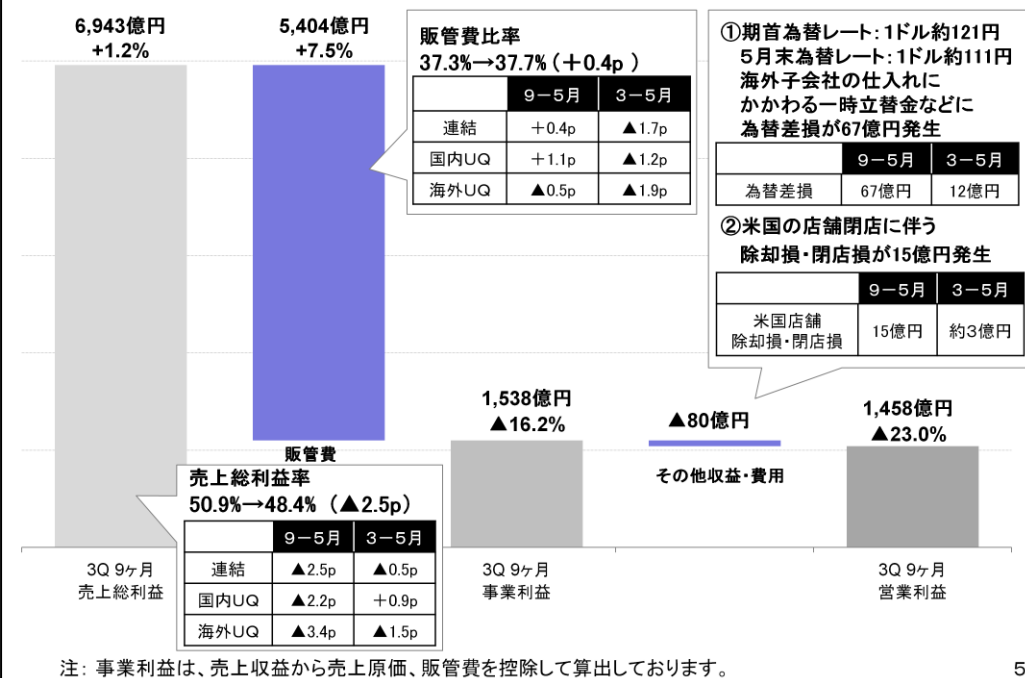
海外ユニクロ事業の売上構成比が37.1%へ拡大



まず、売上収益ですが、1兆4,346億円と前年同期比6.4%増、865億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が509億円の増収、グローバルブランド事業が283億円の増収、国内ユニクロ事業が73億円の増収となっております。

この結果、海外ユニクロ事業の売上構成比は37.1%と、前年同期比で1.4ポイント拡大いたしました。

【連結】第3四半期(9ヶ月累計) 営業利益



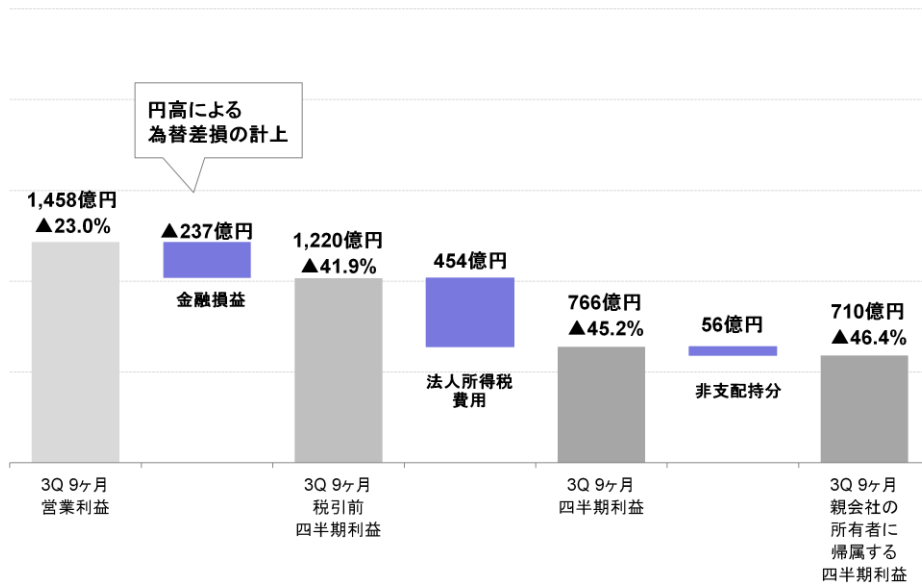
売上総利益は6,943億円と前年同期比1.2%の増益となりましたが、売上総利益率は48.4%と、同2.5ポイントの低下となりました。これは国内ユニクロと海外ユニクロの粗利益率が低下したことによります。ただし、国内ユニクロの第3四半期3ヶ月間の粗利益率は、同0.9ポイント改善しております。

販管費は5,404億円と同7.5%増となりました。売上販管費比率は37.7%と、前年同期比0.4ポイント上昇しております。これは国内ユニクロ事業で販管費比率が1.1ポイント上昇したことによります。ただし、国内ユニクロの第3四半期3ヶ月間の販管費比率は、同1.2ポイント改善しております。

売上収益から売上原価、販管費を控除した事業利益は1,538億円と、同16.2%の減益となりました。

その他収益・費用の合計は80億円のマイナスとなっております。これは主に、期首の為替レート、1ドル約121円に比べ、5月末の為替レートが1ドル約111円と円高となったことにより、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などに為替差損が9ヶ月累計では67億円発生したこと、および米国の店舗閉店に伴う除却損・閉店損が9ヶ月累計で15億円発生したことによります。

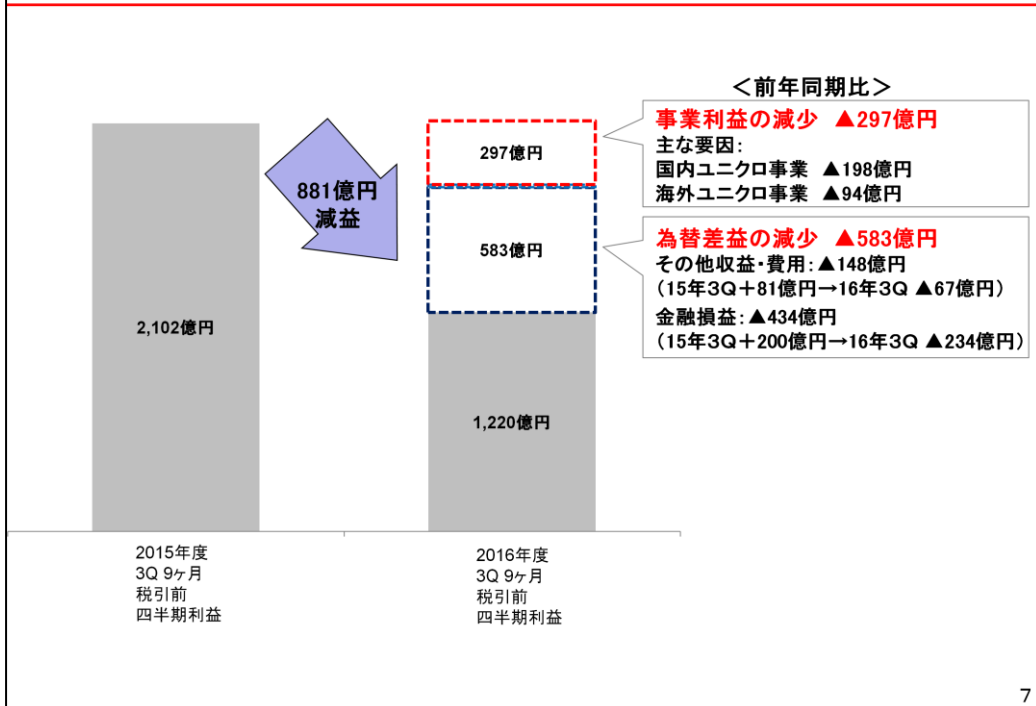
これらの結果、営業利益は1,458億円、同23.0%の減益となりました。



次に、金融損益ですが、期首に比べ、為替が円高になったことから、外貨建資産などの換算額が減少し、金融損益はネットで237億円のマイナスとなっております。

この結果、税引前四半期利益は1,220億円と前年同期比41.9%減、親会社の所有者に帰属する四半期利益は710億円、同46.4%減となりました。

【連結】第3四半期(9ヶ月累計) 減益要因



この第3四半期9ヶ月累計の税引前四半期利益は前年同期比881億円の大幅な減益となりましたが、その要因分析としては、事業利益で同297億円の減少となったことに加え、為替差益が差損に転じ、合計で同583億円減少したことによります。

為替差益が減少した内訳は、その他収益・費用に計上されている為替差益が148億円減少したこと、金融損益で計上されている外貨建資産などの換算額が434億円減少したことによります。

【セグメント別】第3四半期 実績

単位: 億円

		1Q~3Q (2015/9~2016/5)			3Q (2016/3~2016/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	6,454	6,381	+1.1%	1,917	1,836	+4.4%
	事業利益 (売上比)	928 14.4%	1,127 17.7%	▲17.6%	292 15.2%	241 13.1%	+21.3% +2.1p
	その他収益・費用	3	10	▲64.0%	▲1	2	-
	営業損益 (売上比)	932 14.4%	1,137 17.8%	▲18.1% ▲3.4p	291 15.2%	243 13.2%	+19.7% +2.0p
海外ユニクロ事業	売上収益	5,328	4,818	+10.6%	1,435	1,363	+5.3%
	事業利益 (売上比)	445 8.4%	540 11.2%	▲17.6%	120 8.4%	108 7.9%	+10.8% +0.5p
	その他収益・費用	▲23	▲20	-	8	▲17	-
	営業損益 (売上比)	422 7.9%	519 10.8%	▲18.7% ▲2.9p	128 8.9%	90 6.7%	+41.1% +2.2p
グローバル ブランド事業	売上収益	2,543	2,259	+12.6%	870	777	+12.0%
	事業利益 (売上比)	234 9.2%	208 9.2%	+12.7% 0.0p	92 10.6%	84 10.9%	+9.0% ▲0.3p
	その他収益・費用	▲4	▲10	-	▲4	▲3	-
	営業損益 (売上比)	230 9.1%	197 8.8%	+16.5% +0.3p	87 10.0%	80 10.4%	+8.7% ▲0.4p

注: 連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

次にセグメント別の業績についてご説明します。

国内ユニクロ事業および海外ユニクロ事業は9ヶ月累計では増収減益でしたが、第3四半期3ヶ月間では増収増益となっております。

グローバルブランド事業の9ヶ月累計では増収増益、第3四半期3ヶ月間でも増収増益となりました。

**第3四半期3ヶ月間は増収増益
売上収益は計画通り、営業利益は計画を上回る**

単位: 億円

	1Q~3Q (2015/9~2016/5)			3Q (2016/3~2016/5)		
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
売上収益 (売上比)	6,454 100.0%	6,381 100.0%	+1.1%	1,917 100.0%	1,836 100.0%	+4.4%
売上総利益 (売上比)	3,061 47.4%	3,166 49.6%	▲3.3% ▲2.2p	972 50.7%	914 49.8%	+6.3% +0.9p
販管費 (売上比)	2,132 33.0%	2,038 31.9%	+4.6% +1.1p	680 35.5%	673 36.7%	+1.0% ▲1.2p
事業利益 (売上比)	928 14.4%	1,127 17.7%	▲17.6% ▲3.3p	292 15.2%	241 13.1%	+21.3% +2.1p
その他収益・費用 (売上比)	3 0.1%	10 0.2%	▲64.0% ▲0.1p	▲1 -	2 0.1%	- -
営業利益 (売上比)	932 14.4%	1,137 17.8%	▲18.1% ▲3.4p	291 15.2%	243 13.2%	+19.7% +2.0p

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。
事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

9

9ページのスライドからは、各セグメントの業績を第3四半期3ヶ月間でお話させていただきます。

まず、国内ユニクロ事業ですが、第3四半期3ヶ月間の売上収益は前年同期比4.4%増、営業利益は同19.7%増となりました。

上期は減収減益でしたが、第3四半期3ヶ月間では増収増益へ転じることができました。

第3四半期3ヶ月間の業績は、4月7日に発表いたしました直近の計画に対して、売上収益は計画通り、営業利益は計画を上回る結果となっております。

【国内ユニクロ事業】売上収益の状況

3Q 売上収益 1,917億円（前年同期比+4.4%）
（3～5月）・既存店売上高：前年同期比+2.8%（客数 ▲6.1%、客単価+9.4%）
 ・Eコマースの売上は105億円、同40.6%増、売上構成比4.1%→5.5%

- ・3月は、ボトムス、ニット、カットソーなどの春物商品の立ち上がりが順調。
- ・4月、5月は、ジョガーパンツやスキャンツなどのトレンド商品、エアリズム素材やドライ素材を使ったスポーツキャンペーン商品の販売が好調で、既存店売上高は前年を上回る
- ・客数の減少が続くものの、平日の客数が増えるなど、月を追って徐々に改善傾向
- ・客単価の上昇は、値引率が減少したことや、比較的単価の高いジョガーパンツやスキャンツなどの販売が好調だったことによる

直営既存店 前年比	2016年8月期					
	上期累計	3月	4月	5月	3Q	6月
売上高	▲1.9%	▲0.3%	+1.3%	+5.9%	+2.8%	+4.5%
客数	▲6.3%	▲8.6%	▲7.2%	▲3.6%	▲6.1%	▲3.6%
客単価	+4.7%	+9.1%	+9.1%	+9.9%	+9.4%	+8.5%

2016年5月末 直営店舗数807店舗、前年同期末比▲7店舗
 FC店 39店舗、 同 +9店舗

10

国内ユニクロの売上収益は前年同期比4.4%の増収となりました。
 これは主に、既存店売上高が同2.8%の増収となったこと、
 Eコマースの売上が105億円、同40.6%の大幅な増収となったことによります。
 Eコマースの売上構成比は前年同期の4.1%から5.5%に高まっております。

3月は上旬に気温が高く推移し、ボトムス、ニット、カットソーなどの春物商品が順調に立ち上がったものの、既存店売上高は前年並みに留まりました。
 4月、5月は、ジョガーパンツやスキャンツなどのトレンド商品の販売が好調だったことに加え、エアリズム素材やドライ素材を使ったスポーツキャンペーン商品の販売が好調で、既存店売上高は前年を上回りました。

既存店売上高2.8%増の内訳は、客数で6.1%の減少、客単価で9.4%の増加となっております。

客数の減少は続いていますが、平日の客数が増えるなど、月を追って徐々に改善傾向にあります。

また、客単価の上昇については、値引率が減少したことや、比較的単価の高いジョガーパンツやスキャンツなどの販売が好調だったことによります。

なお、5月末の直営店舗数は807店舗と前年同期末比で7店舗減少いたしました。フランチャイズ店は39店舗と9店舗増加しております。このうち8店舗は直営店がフランチャイズ店に転換したものです。

春夏のトレンド商品



ジョガーパンツ

スカンツ



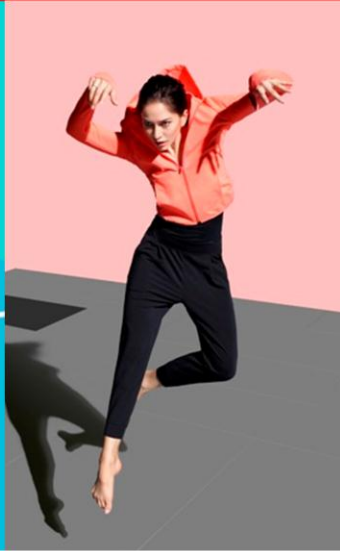
プリーツスカート

11ページのスライドは、この春夏で好調だった、ジョガーパンツ、スカンツ、プリーツスカートです。これらトレンド商品への対応による売上拡大のチャンスが見えてきました。

春夏のスポーツキャンペーン



ドライEXポロシャツ



UVカットメッシュパーカ



ドライストレッチパンツ

また、12ページの写真は、この春夏で好調だった、スポーツキャンペーンの商品です。特に好調だったのは、ドライEX素材を使ったドライEXポロシャツや、エアリズム素材を使ったウィメンズのUVカットメッシュパーカや、伸縮性・速乾性にすぐれたドライストレッチパンツです。今後も、ユニクロスポーツとして、スポーツ関連の商品やスタイリングを強化する計画です。

3Q
(3~5月) 売上総利益率 50.7% (前年同期比 +0.9p)

粗利益率は前年同期比および計画比で改善

- ・週末の限定販売を抑え、毎日お買い求めやすい価格戦略を展開した結果、値引率が改善
- ・期中生産の一部で使用したスポット為替レートが、社内レートに比べて円高になったことも若干寄与

次に、国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の売上総利益率ですが、50.7%と、前年同期比0.9ポイント改善いたしました。これは、計画を上回る水準となっております。

粗利益率が前年同期比および計画比で改善した要因は、主に値引率が改善したことによります。

週末の限定販売を抑え、毎日お買い求めやすい価格戦略を展開した結果、値引率を改善することができました。

また、期中生産の一部で使用したスポット為替レートが、社内レートに比べて円高になったことも、粗利益率の改善に若干寄与しております。

**3Q
(3~5月) 売上販管費比率 35.5% (前年同期比-1.2p)**

**物流費は増加傾向も、
全体としては計画を上回るペースで削減**

物流費	前年同期比	+0.9ポイント
広告宣伝費	同	-0.9ポイント
賃借料	同	-0.2ポイント
人件費	同	-0.1ポイント
減価償却費	同	-0.1ポイント
その他経費	同	-0.9ポイント

14

売上販管費比率は35.5%と、前年同期比1.2ポイント低下いたしました。
物流費は増加傾向にありますが、経費全体としては計画を上回るペースで削減できております。

経費比率で改善した項目は、広告宣伝費で0.9ポイント、
賃借料で0.2ポイント、人件費で0.1ポイント、減価償却費で0.1ポイント、
委託費・消耗品費などを含むその他経費で0.9ポイントとなっております。

広告宣伝費は、チラシや新聞広告を削減いたしました。

賃借料率が減少したのは、既存店売上高が増収となったことによります。

経費削減努力により、委託費・消耗品費・水道光熱費などのその他経費率が減少いたしました。

一方で、経費比率で増加した項目は、物流費です。
これは、今年4月に竣工した有明倉庫の賃料、および物流改革に伴う一時的な費用の増加によるものです。
物流費増加の傾向は、第4四半期までは続く見込みです。

3Q (3~5月) ほぼ計画通りの増収増益

- ・グレーターチャイナが増益に転じる
- ・東南アジア・オセアニア地区、欧州が引き続き増収増益
- ・韓国は減収減益が続く
- ・米国は赤字幅が縮小。6月に5店舗目を閉店
- ・海外ユニクロ事業の店舗数:38店舗の純増、5月末928店舗

		1Q~3Q (2015/9~2016/5)			3Q (2016/3~2016/5)			単位:億円
		9ヶ月累計実績	前年実績	前年同期比	3ヶ月実績	前年実績	前年同期比	
海外ユニクロ事業	売上収益	5,328	4,818	+10.6%	1,435	1,363	+5.3%	
	事業利益 (売上比)	445 8.4%	540 11.2%	▲17.6% ▲2.8p	120 8.4%	108 7.9%	+10.8% +0.5p	
	その他収益・費用	▲23	▲20	-	8	▲17	-	
	営業損益 (売上比)	422 7.9%	519 10.8%	▲18.7% ▲2.9p	128 8.9%	90 6.7%	+41.1% +2.2p	

注: 事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

15

次に海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間の売上収益は1,435億円、前年同期比5.3%増、営業利益は128億円、同41.1%増と、ほぼ計画通りの増収増益となりました。

グレーターチャイナが増益に転じ、東南アジア・オセアニア地区、欧州が引き続き増収増益、韓国は減収減益が続いております。
米国の赤字幅は前年同期比で縮小いたしました。
なお、米国では6月に5店舗目を閉店し、第3四半期に閉店損を約3億円計上しております。

この第3四半期では、グレーターチャイナおよび東南アジア地区を中心に、39店舗を出店、1店舗を閉店し、38店舗の純増となりました。
海外ユニクロ事業全体での店舗数は、5月末で928店舗に達しております。

3Q (3~5月) 各エリアの業績トレンド

- ・**グレーターチャイナ**: 計画を上回り、増収増益に転じる
 - ・中国大陸は、UTなどの春夏のコア商品の販売が好調で、既存店売上高が増収、計画を上回る増収増益を達成
 - ・香港と台湾では、景気のスローダウンの影響が続き、減収減益となったものの、計画通り、減益幅は縮小
- ・**韓国**: 計画を下回り、減収減益
 - ・引き続き、景気のスローダウンの影響や、競合他社との競争が激化、売上の苦戦が続き、既存店売上高が減収
- ・**東南アジア・オセアニア地区**: ほぼ計画通りの増収増益
 - ・オーストラリアは11店舗目を出店し、順調に業績が拡大
- ・**米国**: ほぼ計画通り、赤字幅を縮小
 - ・売上は計画通りほぼ前年並み
 - ・在庫調整が一巡したことにより粗利益率が改善、経費削減により販管費比率も改善
- ・**欧州**: 計画を上回り、増収増益
 - ・3月にリニューアルオープンしたグローバル旗艦店311オックスフォードストリート店の効果もあり、欧州の既存店は増収、特に英国、ロシア、ドイツの収益が改善

16

次に、各エリアの第3四半期3ヶ月間の業績トレンドについてご説明いたします。

中国大陸、香港、台湾といったグレーターチャイナの業績は、計画を上回り、増収増益に転じました。

中国大陸は、UTなどの春夏のコア商品の販売が好調で、既存店売上高が増収となり、計画を上回る増収増益を達成いたしました。一方、香港と台湾では、景気のスローダウンの影響が続き、減収減益となったものの、計画通り、減益幅は縮小いたしました。

出店については、第3四半期ではグレーターチャイナ全体では18店舗を出店、1店舗を閉店し、5月末の店舗数は537店舗に達しております。

韓国では、計画を下回り、減収減益の結果となりました。これは、引き続き、景気のスローダウンの影響や、競合他社との競争が激化したことにより、売上の苦戦が続き、既存店売上高が減収となったためです。

第3四半期では、8店舗を出店し、5月末の店舗数は171店舗となっております。

東南アジア・オセアニア地区では、ほぼ計画通りの増収増益となりました。

なお、オーストラリアでは、11店舗目を出店し、順調に業績が拡大しております。

東南アジア・オセアニア地区では、第3四半期に8店舗出店し、5月末の店舗数は140店舗となっております。

米国は、ほぼ計画通り、赤字幅を縮小することができました。

売上は計画通りほぼ前年並み、在庫調整が一巡したことにより粗利益率が改善、また、経費削減により販管費比率も改善したことから、赤字幅が縮小いたしました。なお、6月に5店舗目を閉店し、第3四半期に閉店損を約3億円計上しております。

米国の5月末の店舗数は44店舗となっております。

欧州は、計画を上回り、増収増益となりました。

3月にリニューアルオープンしたグローバル旗艦店311オックスフォードストリート店の効果もあり、欧州の既存店は増収となり、特に英国、ロシア、ドイツの収益が改善いたしました。欧州の店舗数は5店舗出店し、5月末で36店舗となりました。

海外店舗出店トピックス

2016年3月 ロンドン グローバル旗艦店
ユニクロ 311オックスフォードストリート店が
リニューアルオープン



2016年7月 米国フロリダに
Disney Springs店オープン予定



2016年秋 シンガポールグローバル旗艦店を
オーチャードストリートにオープン予定



2016年秋 カナダ1号店を
トロントにオープン予定



17

ここで、海外の出店情報について、いくつかご紹介させていただきます。

3月に、英国ロンドンのグローバル旗艦店「ユニクロ 311オックスフォードストリート店」がリニューアルオープンいたしました。

欧州での各ユニクロ事業の既存店をプラスにするなど、現地のみならず欧州全体でのユニクロの知名度向上に寄与しております。

また、米国では7月に、フロリダ州のオーランドにあるウォルトディズニーワールドリゾート内に、Disney Springs店をオープンする予定です。

また、来期となりますが、秋にはシンガポールのグローバル旗艦店をオーチャードストリートに、カナダ1号店をトロントに、各地で存在感のある店舗を、続々とオープンする予定です。

パリに本格的なR&Dセンターを立ち上げ、
クリストフ・ルメール氏がアーティスティックディレクターに就任
パリ発の新ラインUniqlo U(ユニクロ ユー)を2016年秋から発売



クリストフ・ルメール氏とユニクロパリR&Dセンターのチームメンバー

18

パリではこの春に、本格的なR&Dセンターを立ち上げ、そのアーティスティックディレクターにクリストフ・ルメール氏が就任いたしました。

ルメール氏が率いるパリR&Dセンターでは、新しいラインのUniqlo U(ユニクロ ユー)を、この秋から全世界のユニクロで発売する予定です。

Uniqlo Uは、LifeWearのコンセプトに基づき、ユニクロのベーシックアイテムを、独自の素材・色・デザインで展開するものです。

3Q (3~5月) ほぼ計画通りの増収増益

- ・ジュー事業：計画を上回り、増収増益
スカンツやロングTといったキャンペーン商品の販売が好調
既存店売上高は2桁増収。5月末の店舗数は352店舗
- ・セオリー事業：計画通り、若干の増益
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：計画を下回り、赤字幅拡大
- ・プリンセス タム・タム事業：計画通り、赤字が継続
- ・J Brand事業：計画通り、赤字が継続

		1Q~3Q (2015/9~2016/5)			3Q (2016/3~2016/5)			単位：億円
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比	
グローバルブランド 事業	売上収益	2,543	2,259	+12.6%	870	777	+12.0%	
	事業利益 (売上比)	234 9.2%	208 9.2%	+12.7% 0.0p	92 10.6%	84 10.9%	+9.0% ▲0.3p	
	その他収益・費用	▲4	▲10	-	▲4	▲3	-	
	営業損益 (売上比)	230 9.1%	197 8.8%	+16.5% +0.3p	87 10.0%	80 10.4%	+8.7% ▲0.4p	

注：事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。

19

次に、グローバルブランド事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間での売上収益は870億円、前年同期比12.0%増、
営業利益は87億円、同8.7%増と、増収増益を達成いたしました。
これは売上、利益ともにほぼ計画どおりの水準となっております。

ジュー事業は、第3四半期3ヶ月間では計画を上回り、増収増益を
達成いたしました。

特に、スカンツやロングTといったキャンペーン商品の販売が好調だったことにより、
既存店売上高は2桁増収となりました。

第3四半期3ヶ月間では21店舗を出店、8店舗を閉店し、5月末の店舗数は
352店舗となりました。

セオリー事業は、計画通り、若干の増益となりました。

コントワー・デ・コトニエ事業は、春物商品の販売が不調だったことから減収、
営業利益も計画を下回り、赤字幅は拡大いたしました。

プリンセス タム・タム事業、J Brand事業は、計画通りでしたが、赤字が継続して
おります。

単位：億円

	2015年5月末	2015年8月末	2016年5月末	前年同期比
資産合計	12,706	11,637	12,727	+21
流動資産	9,605	8,743	9,774	+169
非流動資産	3,100	2,893	2,952	▲148
負債	4,236	3,889	5,791	+1,554
資本合計	8,469	7,748	6,935	▲1,533

20

次に、2016年5月末のバランスシートの説明をいたします。

資産合計は1兆2,727億円と、前年同期末比21億円増加いたしました。これは、流動資産が同169億円増加した一方で、非流動資産が同148億円減少したためです。

負債は、社債を発行したこと、繰延税金負債が減少したことにより、同1,554億円増加し、5,791億円となっております。

資本合計は、主にデリバティブ金融資産の評価額の減少により、同1,533億円減少し、6,935億円となっております。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +169億円(9,605億円⇒9,774億円)

- ・現金及び現金同等物の増加: +298億円(4,240億円⇒4,539億円)
- ・その他の短期金融資産の増加: +1,688億円(302億円⇒1,990億円)

2015年12月の社債発行にともなう現金の増加、および営業キャッシュフローの増加
期末日の曜日回りの影響により、仕入債務などが決済され、130億円の現金の減少

- ・たな卸資産の増加: +176億円(2,001億円⇒2,178億円)

【国内UQ】+27億円 【海外UQ】+81億円 店舗数+161店舗

【グローバルブランド】+67億円 ジュー事業の事業拡大による在庫増

- ・デリバティブ金融資産の減少: ▲1,998億円(資産2,137億円⇒138億円)

保有する為替予約の平均レートが円安になったことに加え、5月末の為替レートが
円高となったことにより、その乖離幅が大幅に縮小したため
ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はない

非流動資産の減少 ▲148億円(3,100億円⇒2,952億円)

- ・無形資産の減少: ▲134億円(801億円⇒667億円) J Brandなどの減損損失

負債の増加 +1,554億円(4,236億円⇒5,791億円)

- ・2015年12月 2,500億円の社債を発行
- ・繰延税金負債の減少: 683億円

21

まず、流動資産が169億円増加した要因をご説明いたします。

現金及び現金同等物は4,539億円と、同298億円増加したのに加え、
3ヶ月超の定期預金など流動性の高い、その他の短期金融資産が1,990億円と
同1,688億円増加しております。これは、2015年12月に発行した社債にともない
現金が増加したこと、営業キャッシュフローが増加したことによります。
一方で、期末日の曜日回りの影響により、仕入債務などが決済され、前年同期末比
130億円の現金の減少がありました。

たな卸資産は2,178億円と、前年同期末比176億円増加しております。

国内ユニクロ事業の5月末の在庫は、同27億円増加しておりますが、
特に問題ない水準です。

海外ユニクロ事業の在庫は、店舗数が同161店舗増えたため、同81億円増加いたしました。
グローバルブランド事業の在庫は、同67億円増加しております。これは、ジュー事業の
事業拡大に伴って在庫が拡大したことによります。

デリバティブ金融資産は、資産側で138億円と前年同期比1,998億円減少いたしました。

これは、保有する為替予約の平均レートが円安になったことに加え、
5月末の為替レートが円高となったことにより、その乖離幅が大幅に縮小したためです。
国内ユニクロ事業などでは、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。
なお、ヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はありません。

非流動資産は、前年同期末比で148億円減少しております。

これは、2015年8月期末にJ Brandなどの減損損失を計上したことなどにより、
無形資産が134億円減少したことによります。

負債は、前年同期末比で1,554億円増加しております。これは、2015年12月に
総額2,500億円の社債を発行したこと、および繰延税金負債の減少683億円によります。

単位: 億円

	2015年8月期 第3四半期累計	2016年8月期 第3四半期累計	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,811	+1,324	
税引前四半期利益	+2,102	+1,220	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費及びその他償却費	+275	+277	
運転資金の増減額	+19	+114	棚卸資産の減少 仕入債務の増加
法人税等の支払い・還付	▲526	▲503	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲608	▲2,189	
定期預金の増減額(▲は増加)	▲173	▲1,823	3ヵ月超の定期預金が増加
有形固定資産の取得による支出	▲324	▲269	出店拡大に伴う投資
無形資産の取得による支出	▲57	▲68	システム投資など
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲411	+2,032	
配当金の支払額	▲331	▲366	期末配当金1株当たり175円、 中間配当金185円の支払
社債の発行による収入	-	+2,493	2015年12月に社債を発行
現金及び現金同等物に係る換算差額	+308	▲180	
現金及び現金同等物の増加額	+1,100	+987	
現金及び現金同等物期首残高	3,140	3,552	
現金及び現金同等物期末残高	4,240	4,539	

22

次に、第3四半期累計のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,324億円の収入となりました。
これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献1,220億円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,189億円の支出となりました。
支出の主な内訳としては、定期預金の増加で1,823億円、
有形固定資産の取得で269億円、システム投資などによる無形資産の取得で
68億円となっております。
定期預金が1,823億円増加した主な要因は、2015年12月に社債発行で調達した
現金の一部と余剰資金の一部を3ヶ月超の定期預金として預け入れたためです。
定期預金は昨年と比べ大幅に増加いたしました。この資金1,823億円は
実質的には流動性が高い資金と言えます。

なお、連結の設備投資額は417億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で38億円、
海外ユニクロ事業で210億円、グローバルブランド事業で68億円、
システム投資などで99億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,032億円の収入となりました。
主な内訳としては、配当金の支払額366億円の支出に対し、社債発行による収入
2,493億円になります。

以上の結果、2016年5月末における現金及び現金同等物の期末残高は4,539億円
となり、これに定期預金など1,990億円を加えた流動性が高い金融資産は6,530億円
となっております。

【連結】2016年8月期 通期業績予想

**売上収益、営業利益の予想は変更なし
円高により、親会社の所有者に帰属する当期利益は450億円へ修正**

- ・金融収益・費用は、6月末の為替レート1ドル約103円を前提とし、
為替差損370億円を見込む
- ・親会社の所有者に帰属する当期利益は、600億円から450億円へ減額修正

	2015年8月期 通期実績	2016年8月期 直近予想 (4/7時点)		2016年8月期 修正予想 (7/14時点)			単位: 億円
			前期比		前期比	直近予想比	
売上収益 (売上比)	16,817 100.0%	18,000 100.0%	+7.0%	18,000 100.0%	+7.0%	-	
事業利益 (売上比)	1,766 10.5%	1,500 8.3%	▲15.1% ▲2.2p	1,500 8.3%	▲15.1% ▲2.2p	-	
営業利益 (売上比)	1,644 9.8%	1,200 6.7%	▲27.0% ▲3.1p	1,200 6.7%	▲27.0% ▲3.1p	-	
金融収益・費用	162	▲175	-	▲370	-	▲195	
税引前利益 (売上比)	1,806 10.7%	1,025 5.7%	▲43.3% ▲5.0p	830 4.6%	▲54.1% ▲6.1p	▲195	
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,100 6.5%	600 3.3%	▲45.5% ▲3.2p	450 2.5%	▲59.1% ▲4.0p	▲150	

23

続いて、2016年8月期の通期の業績予想について、ご説明いたします。

第3四半期9ヶ月間の実績では、国内ユニクロ事業が計画を上回るペース、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業がほぼ計画通りに進捗しており、連結ベースではやや計画を上回る業績となっておりますが、通期の売上収益、事業利益、営業利益は直近の予想数値から変更していません。

しかし、金融収益・費用については、6月末の為替レート1ドル約103円を前提とし、通期の為替差損の予想を370億円に修正いたしました。

その結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は、直近予想の600億円から450億円へ減額修正いたしました。

2016年8月期 セグメント別業績予想

国内ユニクロ事業：下期の営業利益は増益、通期は減益を予想

- ・3Qは、粗利益率の改善、経費削減が計画を上回る、強含みの状況
- ・4Qでは、店舗の減損損失約20億円を見込むが、粗利益率、経費比率が引き続き改善することで、下期の営業利益は前年比で増益となる見込み
- ・通期では、上期の減益幅が大きかったことから、増収減益を予想

海外ユニクロ事業：下期は増収増益も、通期では増収減益

- ・4Qも順調な業績が続く見込み。引き続きグレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア、欧州は増益。米国は店舗減損約40億円を含んでも、赤字幅は縮小する見込み
- ・韓国は厳しい業績が続く見込み
- ・通期では、上期の減益幅が大きかったことから、増収減益を見込む

グローバルブランド事業：ジュー事業好調で、事業利益は増益も、減損損失計上で、営業利益は減益予想

- ・ジュー事業は、引き続き好調な業績が続き、通期は大幅な増収増益を予想
- ・セオリー事業は、4Qも計画通りの増益、通期でも増収増益の見込み
- ・コントワー・デ・コトニエ事業は、4Qに赤字が拡大、通期でも赤字の見込み
- ・プリンセス タム・タム事業は、通期で前年並みの赤字の見込み
- ・J Brand事業は、4Qも赤字が継続、通期も赤字幅が拡大。減損損失150億円を見込む

24

次に、セグメント別の業績トレンドについてご説明いたします。

まず、国内ユニクロ事業ですが、第3四半期3ヶ月間は、粗利益率の改善、経費削減が計画を上回る、強含みの状況です。

第4四半期では、店舗の減損損失約20億円を見込んでおりますが、粗利益率、経費比率が引き続き改善することで、下期の営業利益は前年比で増益となる見込みです。

しかし、通期では、上期の減益幅が大きかったことから、増収減益を予想しております。

海外ユニクロ事業の第4四半期も順調な業績が続く見込みで、下期は増収増益を予想しております。

第4四半期は、引き続きグレーターチャイナ、東南アジア・オセアニア、欧州は増益を見込んでおり、また、米国は店舗減損約40億円を含んでも赤字幅は縮小する見込みです。

一方、韓国は厳しい業績が続く見込みです。

なお、通期の海外ユニクロ事業の業績は、上期の減益幅が大きかったことから、増収減益を見込んでおります。

グローバルブランド事業は、ジュー事業の好調が続くため、事業利益は増益となる見込みですが、コントワー・デ・コトニエ事業の赤字の拡大と、J Brand事業の減損損失150億円の計上で、営業利益は減益を予想しております。

ジュー事業は、第4四半期も引き続き好調な業績が続く見込みで、通期は大幅な増収増益を予想しております。

セオリー事業は、第4四半期も計画通りの増益、通期でも増収増益を見込んでおります。

コントワー・デ・コトニエ事業は、第4四半期も赤字が拡大、通期でも赤字になる見込みです。

プリンセス タム・タム事業は、通期で前年並みの赤字を見込んでおります。

J Brand事業は、第4四半期も赤字が継続し、通期も赤字幅が拡大する見込みで、減損損失約150億円を見込んでおります。

2016年8月期 下期・通期業績予想

	下期予想			通期予想	
	事業利益	減損損失	営業利益	事業利益	営業利益
国内ユニクロ事業	増益	店舗 約20億円	増益	減益	減益
海外ユニクロ事業	増益	米国・店舗 約40億円	増益	減益	減益
グローバルブランド事業	増益	J Brand 約150億円	減益	増益	減益

海外ユニクロ事業 出店予想		グローバルブランド 出店予想	
グレーターチャイナ	約100店舗	GU事業	50店舗
韓国	約20店舗	セオリー事業	28店舗
東南アジア・オセアニア地区	約40店舗	CDC事業	7店舗
米国	約7店舗	PTT事業	3店舗
欧州	約10店舗	合計	88店舗
合計	約177店舗		

25ページのスライドでは、下期および通期のセグメント別利益のトレンドと、出店予想をまとめております。

なお、配当金につきましては、すでに実施した1株当たり中間配当金185円と、期末配当金165円を合わせて、年間配当金350円を予想しております。

2016年6月に1,281万着の衣料回収を達成

10
MILLION
THANKS

1000万着のご支援に、
心より感謝します。



Grandmother with grandson
Kyrgyzstan

最後に、我々のCSR活動のご報告を申し上げます。

世界の難民・避難民に衣料を届ける「1000万着のHELP」プロジェクトは、2016年6月20日の世界難民デーまでに、1,000万着の回収を目標としていました。6月には、この目標を上回る1,281万着の衣料回収を達成したことをご報告いたします。

このプロジェクトは、ユニクロおよびジーユーの店頭にお持ち頂いたお客様や関係取引先様、教育機関様などの皆様にご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

以上で、私からの説明を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

連結対象事業別出退店 実績

【単位：店舗】	15年8月期 期末	2016年8月期 1Q~3Q実績 (2015/9~2016/5)			期末
		出店	退店	総増減	
ユニクロ事業合計	1,639	179	44	+135	1,774
国内ユニクロ事業：※	841	36	31	+5	846
直営店	811	27	31	▲4	807
大型店	208	7	9	▲2	206
標準店等	603	20	22	▲2	601
FC	30	9	0	+9	39
海外ユニクロ事業：	798	143	13	+130	928
中国	387	68	6	+62	449
香港	25	0	0	0	25
台湾	55	8	0	+8	63
韓国	155	18	2	+16	171
シンガポール	23	1	0	+1	24
マレーシア	25	9	0	+9	34
タイ	23	9	0	+9	32
フィリピン	23	7	0	+7	30
インドネシア	8	1	0	+1	9
オーストラリア	6	5	0	+5	11
米国	42	6	4	+2	44
英国	9	1	0	+1	10
フランス	8	2	0	+2	10
ロシア	8	4	1	+3	11
ドイツ	1	2	0	+2	3
ベルギー	0	2	0	+2	2
グローバルブランド事業合計	1,339	87	60	+27	1,366
ジーユー事業	319	49	16	+33	352
セオリー事業※	504	28	10	+18	522
コントワー・デ・コトニエ事業※	368	7	22	▲15	353
プリンセス・タム・タム事業※	145	3	10	▲7	138
J Brand 事業	3	0	2	▲2	1
総合計	2,978	266	104	+162	3,140

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まず
※フランチャイズ店は含む

連結対象事業別出退店 予想

【単位：店舗】	15年8月期	2016年8月期 予想			
	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,639	217	50	+167	1,806
国内ユニクロ事業 ※	841	40	35	+5	846
海外ユニクロ事業	798	177	15	+162	960
グローバルブランド事業 ※	1,339	88	70	+18	1,357
総 合 計	2,978	305	120	+185	3,163

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業は含まず ※フランチャイズ店は含む

為替レート、設備投資、減価償却費

連結取込為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2016年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	118.0	130.3	174.4	18.2	10.0
2015年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	115.3	137.5	180.2	18.6	10.7
2016年8月期 通期予想レート(12ヶ月平均、7/14時点)	114.3	126.3	165.4	17.5	9.8
2015年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	117.3	137.1	183.1	18.9	10.7

設備投資・減価償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費
2016年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	417	277
2015年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	480	275
2016年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	640	403
2015年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	624	377

設備投資内訳

2015年8月期 3Q実績：国内ユニクロ 78億円、海外ユニクロ 268億円、グローバルブランド事業 76億円、システム他 57億円

2016年8月期 3Q実績：国内ユニクロ 38億円、海外ユニクロ 210億円、グローバルブランド事業 68億円、システム他 99億円

2016年8月期 通期予想：国内ユニクロ 42億円、海外ユニクロ 367億円、グローバルブランド事業 118億円、システム他 113億円